

### Ⅲ. 考察と結論

アンケート『精神障害者・要介護高齢者ケアに関わる連携と情報共有に関する調査』の結果から、医療、介護、福祉の領域での連携の現状（の一端）を窺うことが出来た。

精神科医、内科医、ケアマネジャー、精神障害者福祉施設長のいずれの職種も連携の必要を感じており、その背景には連携しなくてはならない切迫した事情がある、しかし、実際には連携は十分には行われていない。特に医療と介護、福祉との連携は大変に希薄である。連携は、情報提供・情報共有することから始められるが、その情報提供を拒否した経験を持っている者が少なくない。このことは、連携には様々な難しさがあり、そうした難しさを克服しないと連携は進んで行かないということを示している。

表 1.

調査対象
精神科医 都内中西部域内の精神科を標榜する医療機関の精神科医 256名
内科医 世田谷区内の内科を標榜する医療機関の医師 263名
介護支援専門員 世田谷区内の居宅介護支援事業所及び在宅介護支援センターの介護支援専門員 220名
精神障害者福祉施設長 都内中西部域内の精神障害者福祉施設の管理者 218名

表 2.

調査方法
調査方法 : 無記名自記式調査票による郵送回収質問紙調査
調査時期 : 2006年2月
有効回答数(回収率) :
精神科医 24票 (9.3%)
内科医 17票 (6.5%)
介護支援専門員 38票 (17.3%)
精障者福祉施設長 95票 (43.6%)

図1. 連携の必要性を感じること

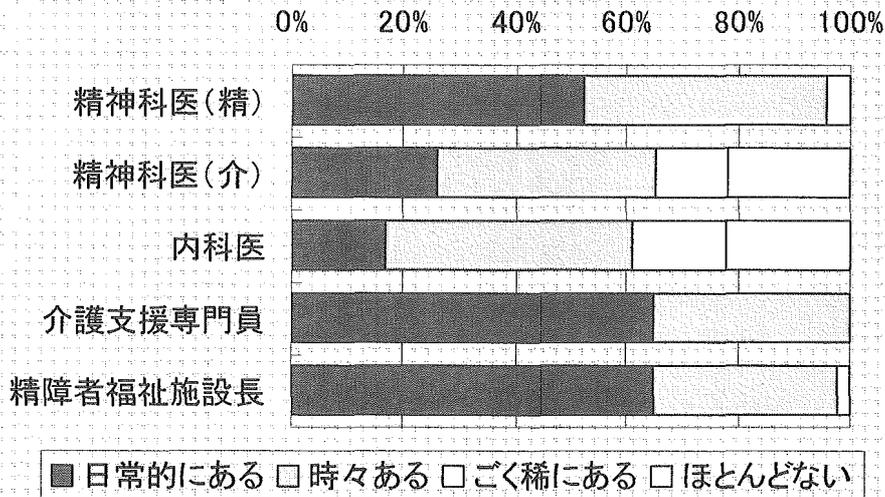


図2. 連携の必要性を感じた相手と連携が取れたかどうか

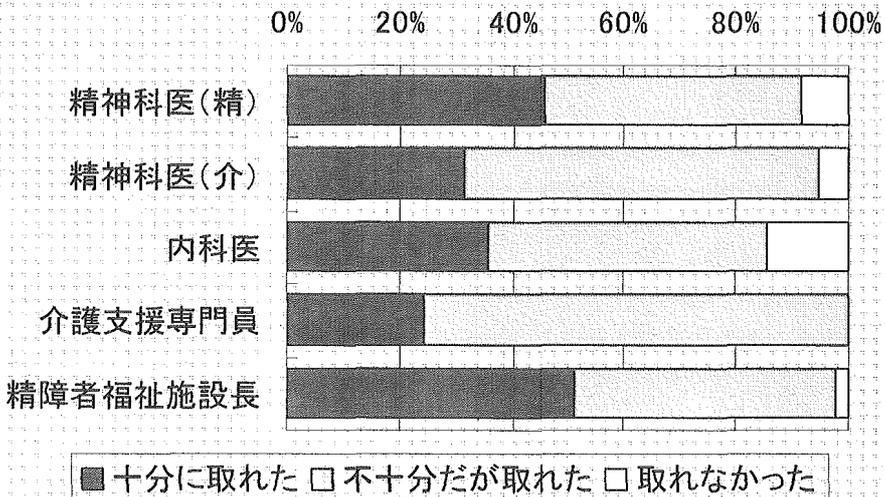
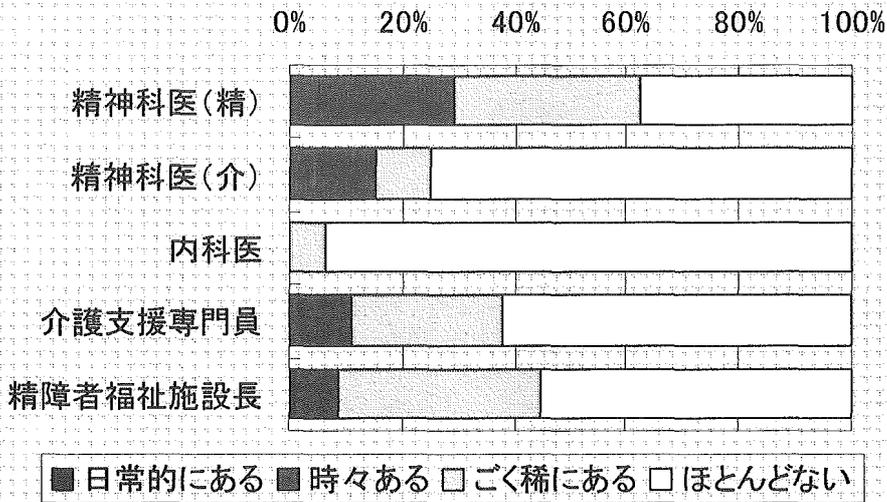


図3. 情報提供を断った経験



### III 研究班名簿

平成 17 年度  
「精神障害者の正しい理解に基づく、ライフステージに応じた生活支援と  
退院促進に関する研究」  
研究班名簿

主任研究者	北井 暁子	国立精神・神経センター精神保健研究所
分担研究者	新居 昭紀	聖隷三方原病院
	大島 正浩	医療法人 至空会 メンタルクリニック・ダダ
	菅原 道哉	東邦大学医学部精神神経医学教室
	竹島 正	国立精神・神経センター精神保健研究所
	山内 慶太	慶應義塾大学看護医療学部
研究協力者	田島 美幸	国立精神・神経センター精神保健研究所
	羽藤 邦利	代々木の森診療所

(五十音順)

---

平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

「精神障害者の正しい理解に基づく、  
ライフステージに応じた生活支援と  
退院促進に関する研究」研究報告書

発 行 日 平成 18 年 3 月

発 行 者 「精神障害者の正しい理解に基づく、  
ライフステージに応じた生活支援と  
退院促進に関する研究」

主任研究者 北井 暁子

発 行 所 国立精神・神経センター精神保健研究所  
〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

TEL : 042-341-2711 FAX : 042-346-1944

---